

時は、平安時代のことです。帝を悩ます「ぬえ」退治を命ぜられたのが、弓術に長じ、歌人としても名をあげた源 頼政でした。

## 高僧の祈禱

今から850年前の昔近衛院(のちのいん)の仁平(にへい)3年の春のことです。時の帝(みかど)近衛院は夜を夜を現れる怪物に怯(おそ)えられ病気は重くなるばかりでした。高僧が祈禱ほした効き目はありませんでした。



源三位 頼政



# 鵄(ぬえ)

鵄は、頭は猿(さる)、尾は蛇(へび)  
足は虎(とら)の怪物でした。



## 鵺退治 (ぬたいに)

兵庫頭頼政 (ひょうごのかみよまさ) に怪物退治を命じられました。雲の中の光るものに矢を射かけ、怪物に命中して、ギャアッ という声とともに落ちてきました。猪早太 (いのはやた) が怪物をしとめました。帝は元気になりました。



見事、鶴(ぬえ)を退治した手柄により、頼政は、当時美貌で評判の高かった菖蒲の前と結ばれました。

菖蒲前 (あやめのまえ)



## 宇治川の戦い

治承(じしやう)4年(1180)頼政は横暴な平家  
家を倒すために以仁王(もちひとおう)を  
奉じて、戦う準備をしていました。計画が  
もれて平家に攻められ、宇治川に負け、  
宇治の平等院で辞世の歌を残して  
自害しました。



## 西国へ落ちる

頼政が謀反を起こしたため、平家方はあやめのまを探していましたが、西国へ逃れることになりました。あやめのまは頼政の子を懐妊していましたが、3人の若君種若丸と、猪早太の三人で賀茂郡下原村の滝の近くへ逃げてきました。

